

北海道地方 ESD活動支援センター 2023年度レポート



北海道地方
ESD活動支援センター

ESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）は、持続可能な未来の創り手を育む学習・教育活動として、学習指導要領に盛り込まれています。ESDはSDGsの達成に不可欠な実施手段にも位置付けられており、国連教育科学文化機関（UNESCO）は、2019年に新たな国際的な枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」を採択しました。我が国もこの理念を踏まえ、関係省庁が第2期ESD国内実施計画（2021年）を策定し、5つの優先行動分野を設定して進めています。

ESD活動支援センターは、ESDを推進する全国のネットワークを構築するため、環境省と文部科学省の共同提案により設置されました。地方ESD活動支援センターは2017年度に、全国8か所の地方環境パートナーシップオフィス（地方EPO）に開設され、学校教育や社会教育におけるESDを推進しています。

地方ESD活動支援センター

地方ESD活動支援センター（地方センター）は、地域のESD活動を支援・推進する「地域ESD拠点」等との連携のもとに、「ESD推進ネットワーク」の広域的なハブ機能を果たしています。

【主な機能】

- 1 ESD活動を支援する情報共有機能
- 2 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
- 3 ESD活動のネットワーク形成機能
- 4 人材育成機能

地域ESD拠点

地域ESD活動推進拠点

学校教育・社会教育の現場では、様々な主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいます。ESD推進ネットワークではそうしたESDを支援・推進する組織・団体等の皆さまを「地域ESD拠点」として登録しています。

地域ESD拠点は地方センターのパートナーとして、他の地域ESD拠点とも連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDを様々な形で支援します。登録をお考えの皆さまは、ぜひ地方センターにご相談ください。



北海道内の地域ESD拠点
(2024年3月現在・登録順)



- 1 北海道教育大学釧路校ESD推進センター（釧路市）
- 2 北海道羅臼町教育委員会（羅臼町）
- 3 国立大雪青少年交流の家（美瑛町）
- 4 NPO法人旭川NPOサポートセンター（旭川市）
- 5 一般財団法人北海道国際交流センター（函館市）
- 6 ネイパル深川（深川市）
- 7 ネイパル北見（北見市）
- 8 ネイパル森（森町）
- 9 ネイパル厚岸（厚岸町）
- 10 ネイパル砂川（砂川市）
- 11 三笠ジオパーク（三笠市）



- 12 ネイパル足寄（足寄町）
- 13 白滝ジオパーク（遠軽町）
- 14 国立日高青少年自然の家（日高町）
- 15 NPO法人霧多布湿原ナショナルトラスト（浜中町）
- 16 NPO法人登別自然活動支援組織モンガくらぶ（登別市）
- 17 NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク（豊富町）
- 18 NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト（余市町）
- 19 株式会社アレフ えこりん村事業部（恵庭市）
- 20 NPO法人さっぽろ自由学校「遊」（札幌市）
- 21 合同会社エゾリンク（札幌市）

地域ESD拠点 プロジェクト協力

北海道地方センターは、地域ESD拠点の活動への企画協力等を行っています。本年度は、下記の取り組みを支援しました。

● 余市エネルギー自給プロジェクト － NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクト

地域におけるエネルギー自給、自立に向けて、住民向けの勉強会やフィールドワークへの企画協力、参加等を行いました。

● 北海道アウトドアフォーラム－国立日高青少年自然の家

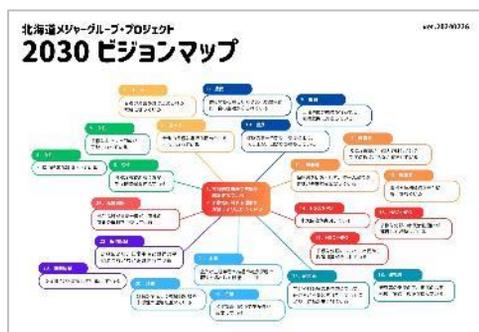
国立日高青少年自然の家が設置した「北海道アウトドアネットワーク推進委員会」に参画し、「北海道アウトドアフォーラム2023」の開催に協力しました。

また、「アウトドアユースウェブ北海道」と協力し、アウトドア業界の若手をゲストに迎え、自然資本の活用に関する意見交換会「アウトドアから取り組む地域づくり」（札幌 12/11）を開催しました。



HOKKAIDO
OUTDOOR NETWORK

● NPO法人さっぽろ自由学校「遊」 － 北海道メジャーグループ・プロジェクト



国連の政策形成の仕組みを参考に、北海道においてマイノリティの意見を政策につなげることを目標としたプロジェクトです。SDGsの中間点である2023年は、2020年度に開始した対話の成果を整理し、構成グループ（女性、ユース、農民、障害者、NGO/NPO、企業、協同組合、先住民族）を取り巻く状況について共有し、変革に向けた今後の動きを考えるミーティング（札幌 2/26）を共催しました。



北海道メジャー
グループ・プロジェクト
(ESDセンター)

気候変動

を切り口とした
ESD学びあい
プロジェクト

ESD推進ネットワークでは、SDGs達成に向けた教育分野の取り組みとして、気候変動を切り口としたESD「気候変動教育」を進めています。

● 脱炭素社会の実現に不可欠な「気候変動教育」

脱炭素社会の実現には、個人のライフスタイルだけではなく社会と経済の仕組みそのものを変える必要があります。そのためには多くの人々が気候変動対策の必要性や可能性を理解し、変化を前向きに受け入れて行動することが求められます。

学校教育においても、児童・生徒一人ひとりが「持続可能な社会の創り手」になるよう、「気候変動教育」の充実が期待されています。しかし国内の学校では、気候変動問題を体系的に学ぶ機会が限られています。

● 勉強会から実践拠点づくりに向けたプロジェクトへ！

このため北海道地方センターでは、2021～22年度に、国内への気候変動教育普及を目指し、連続勉強会や意見交換会を開催してきました。

2023年度は、「気候変動教育」の新たな拠点づくりに向けて、札幌市円山動物園との協働により、「札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト」を実施しました。（[4～5ページ](#)）



札幌市円山動物園×気候変動教育プロジェクト*

Sapporo Maruyama Zoo

Climate Change Education

● ねらい

動物園や水族館、博物館等の社会教育施設は、生物多様性の意味や地球規模の環境変化と私たちの暮らしのつながりを知る、気づきや学びの場として大きな可能性を持っています。そこで次のような流れで、札幌市円山動物園と協働プロジェクトを実施しました。

(主催：EPO北海道（北海道地方ESD活動支援センター）、札幌市円山動物園
協力：NPO法人EnVision環境保全事務所)

- ・動物園での「気候変動教育」の可能性について、環境教育実践者と一緒に考える
- ・成果を道内の他の動物園・水族館にも共有し、広げていく

● 内容

札幌市円山動物園で3回の連続ワークショップの開催を通じて、気候変動教育の取り組みのメニュー化を検討し、その成果を発信する地域フォーラムを開催しました。



● ワークショップの参加者

ワークショップメンバー	オブザーバー
工藤 知美さん (NPO法人EnVision環境保全事務所) 小林 ユミさん (NPO法人北海道グリーンファンド) 寺田 千里さん (合同会社エソリンク) 山崎 真実さん (札幌市博物館活動センター) 鈴木 康滋さん (株式会社アドバコム) 吉中 厚裕さん (酪農学園大学)	札幌市環境局 環境省北海道地方環境事務所 札幌市内水族館 (2施設) 生物多様性ユース団体等

● ESD 推進ネットワーク北海道地域フォーラム「動物たちと考える気候変動」

[開催日時] 2024年1月26日 (金) 13:00~15:00

[開催方法] 札幌市円山動物園 (札幌市) 及びオンライン

[参加者数] 99人

[プログラム]

- 1 開会挨拶 前野 良史さん (札幌市円山動物園)
- 2 報告・話題提供 池田 浩康さん (札幌市円山動物園)
久保田 学 (EPO北海道)
工藤 知美さん (NPO法人 EnVision環境保全事務所)
佐竹 輝洋さん (札幌市環境局)

3 パネルディスカッション

「気候変動・生物多様性保全に果たす動物園の役割」

パネリスト ワークショップメンバー：

寺田さん、山崎さん、小林さん、鈴木さん

朝倉 卓也さん・堤 若菜さん (札幌市円山動物園)

進行 長谷川 理さん (NPO法人 EnVision 環境保全事務所)



「動物たちと考える気候変動」開催報告 (ESDセンター)

※ フォーラム終了後に、参加者で園内フィールドワークを実施しました。

● プロジェクトの成果

ワークショップやフォーラムの開催を通じて、数多くのアイデアとともに、気候変動教育を進めるうえで、伝えたいことや札幌市円山動物園の強み、課題とその解決に向けたポイント等を見出しました。

1 動物園から伝えたいメッセージ

- 気候変動による環境変化が世界各地で動物の生息を脅かし、対策が急がれていること
- 気候変動は遠い世界の話ではなく、北海道でも起きていること
- 私たちの暮らしや経済が気候変動の大きな要因となっていること、動物園にも私たちにもできること、やるべきことがたくさんあること
- 気候変動対策（再生可能エネルギー等）と生物多様性保全とは深い関連性があり、どちらも推し進める必要があること

2 札幌市円山動物園の強み

- 普段、気候変動・環境に関心が高くない人たちもたくさん来園する
- 生きた動物と出会う楽しみ
- 年間約100万人の来場者と絶大な知名度
- 専門性を有するたくさんの職員
- 気候変動・エネルギー対策の取組・設備が豊富
- 寄付の受け入れや外部団体等との連携体制



3 強みを生かしたプログラムのアイデア

- 親子向けに、生息域の気候（温度）を体感するプログラム（熱帯雨林館での常設、園内イベントでの実施等）
- 絵本やデジタル紙芝居、飼育舎でのストーリー展示等と組み合わせた活動を行う、親子（未就学児）向けの子育てサロンの開設
- 若い親子世代に向けて、徒歩での来園や季節ごとの円山公園散策を働きかけ、自動車から公共交通・徒歩への転換を促す
- 来園から気候や生態系に関心を持った子どもたちを「動物園レンジャー」として育成し、活動の場を創り出す
- 気候変動に関心をもった中・高・大学生向けに「よろず相談窓口」を開設し、職員やボランティアと一緒に学ぶ
- 動物展示・気候変動・商品をつなげ、ショップで気候・生息地保全に貢献する商品を販売することでメッセージを発信し、日々の暮らしの中での選択・行動を促す

4 取り組む上での課題とポイント

【課題】

- 多忙な動物園スタッフ ... ボランティアや外部専門家の参画・協働が必要
- 展示更新・新設の予算 ... 市の気候変動政策との連携や企業のサポートが必要
- 日々更新される情報のフォローと対応 ... 気候変動や生物多様性保全に関わる組織や活動とのネットワーク
- 今ある展示・設備・サービスの活用 ... 動物園の活動全体に気候変動対策の一貫性を

【ポイント】

- 動物との出会いを楽しみに来る人々に、気づき・学びの入口を提供する
- 動物や園内にあるものとおして気候変動の生命・環境への影響を体感・直感的に伝える
- 市民・企業・行政が一体となって創っていく
- 動物園の気候変動の取り組みのグランドデザイン（全体像）

ワークショップやフォーラムの参加者から、動物園を舞台にした気候変動教育に対して「新たなおもしろい取り組みができそう！」「ぜひ関わりたい！」「こうした集まりを、またぜひ設けてほしい！」等、たくさんの期待や、応援の声をいただきました。

ESD アドバイザー 派遣制度

北海道地方センターでは、道内の学校教育・社会教育におけるESD/SDGsの導入や実践、現場の課題解決を支援するため、「ESDアドバイザー」を派遣しています。アドバイザーへの謝礼及び旅費は北海道地方センターが負担します。オンラインでのご利用も可能です。

● こんなお悩みはありませんか？

「主体的・対話的で深い学び」はどのようにすれば実現できるのか？
SDGsを、学校や地域の施設での学習に取り入れるには？ 施設の事業計画とESD/SDGsとの関連は？ ...学校教育・社会教育に関係する皆さんの、SDGsの教育分野への具体的な取り入れ方等のお悩みに対応します。

● 登録アドバイザー ※五十音順、所属は2024年3月現在



大津 和子 さん
北海道教育大学名誉教授

キーワード：主体的・対話的で深い学び／
SDGs／国際理解教育



金澤 裕司 さん
持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J) 理事
(前 羅臼町教育委員会 自然環境教育主幹)

キーワード：自然と人間／地域の持続的発展／
総合的な学習による学力向上



松田 剛史 さん
藤女子大学人間生活学部人間生活学科 准教授

キーワード：SDGs／カリキュラム・マネジメント／
PBL／教育課程



ESDアドバイザー
派遣制度
(ESDセンター)

利用者の感想

- ESDにおける「主体的・対話的で深い学び」について深く学習できた。
- SDGs/ESDとはそもそも何なのか、ワークショップを通じて体感し、理解できた。

● 派遣制度ご利用の条件

- 1 派遣の目的が道内におけるESDの導入・実践・課題解決であること
- 2 主催者が非営利団体（行政機関を含む）であること
- 3 助言や支援の対象がESDの実践者または関係者であること
- 4 宗教・政治活動が目的ではないこと

● 2023年度の主な派遣実績 ※申請主体及びテーマ

- 羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会（羅臼町）：指導案の分析
 - 胆振生涯学習研究会（苫小牧市）：SDGsの達成状況を踏まえたプログラム展開方策
 - 北海道白糠高等学校（白糠町）：環境教育のシラバスづくり
- 他 9 件 全派遣計 497名参加

北海道地方ESD活動支援センター
(環境省北海道環境パートナーシップ (EPO北海道) 内)

〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル7階
TEL 011-596-0921 FAX 011-596-0931
URL <https://hokkaido.esdcenter.jp>

発行 2024.3

